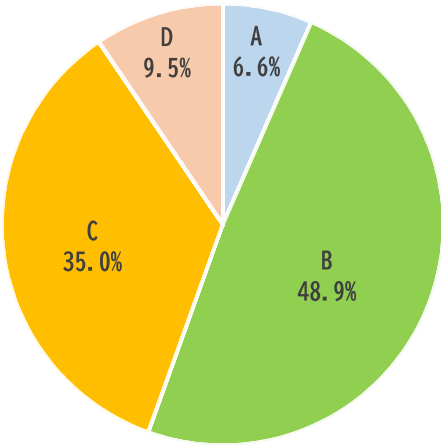


令和7年度事業の担当課による自己評価の集計結果

令和7年度の自己評価は、137事業のうち、課題の取り組みや目標が達成されている評価（A～C評価）は124事業（90.5%）となり、前年度比で▲3.3%となりました。

記号	内容	R7事業分	R6事業分	R5事業分
A	目標を上回る成果が得られている	9事業 (6.6%)	10事業 (7.7%)	7事業 (5.1%)
B	課題の取り組みや目標が達成されている	67事業 (48.9%)	61事業 (46.9%)	68事業 (49.6%)
C	課題の取り組みや目標が、おおむね達成されている	48事業 (35.0%)	51事業 (39.2%)	52事業 (38.0%)
D	課題の取り組みや目標が、あまり達成されていない	13事業 (9.5%)	8事業 (6.2%)	10事業 (7.3%)
E	成果が目標を大きく下回っている	0事業 (0%)	0事業 (0%)	0事業 (0%)

令和7年度事業 自己評価(全体)



今後の事業の方向性の集計結果(全体)

今後の事業の方向性については、各方向性の割合がおおむね前年度と同様となりました。
内訳では、「拡充推進」「改善推進」はほぼ横ばいで推移し、「現状維持」は増加傾向となっています。
なお、費用削減を目指す「合理化」及び「縮小」とする事業はありませんでした。

方向性名称	方向性の内容	費用	成果	R7事業分	R6事業分	R5事業分
拡充推進	さらに費用をかけることにより、成果の向上を図る。	↗	↗	28事業 (20.4%)	27事業 (20.8%)	30事業 (21.9%)
改善推進	費用は現状を維持し、事務事業の見直し（事務改善による効率化、実施方法の転換等）により成果の向上を図る。	→↗	↗	73事業 (53.3%)	73事業 (56.2%)	80事業 (58.4%)
現状維持	事業の見直しの余地がなく、費用、成果ともに現状を維持する。	→	→	27事業 (19.7%)	21事業 (16.2%)	20事業 (14.6%)
合理化	費用は削減するが、事務事業の見直し（事務改善による効率化、実施方法の転換等）により成果の現状維持を図る。	↘	→	0事業 (0%)	1事業 (0.8%)	0事業 (0%)
縮小	成果の縮小や後退もやむを得ないものとし、費用を削減して事業を縮小する。	↘	↘	0事業 (0%)	0事業 (0%)	0事業 (0%)
統廃合等	事業を抜本的に見直し、休止、廃止、他事業との統合、終期設定等を行う。	—	—	2事業 (1.5%)	2事業 (1.5%)	0事業 (0%)
終了	事業の目的を達成または終期到来のため、事業終了とする（単年度事業であり、他の事業との関連や今後の継続性がない事業もここに含む）	—	—	7事業 (5.1%)	6事業 (4.6%)	7事業 (5.1%)

令和7年度事業 今後の方向性(半田市)

